

2 令和7年度の学校評価結果

熊本県立天草高等学校倉岳校 令和7年度（2025年度）学校評価表

1 学校教育目標
「県立高等学校における教育指導の重点」及び「人権教育取組の方向」等を基盤に据え、本校の校訓「正大・剛健・寛厚」のもと、豊かでしなやかな人間性を持つ「地球(知究)市民」の育成を目指す。

2 本年度の重点目標
(1)互いの人権を尊重しあう心の教育の充実 (2)基本的な生活習慣の確立と社会規範意識の醸成(生徒指導の充実) (3)進路意識の高揚と進路目標の早期確立(進路指導の充実) (4)“生きる力”としての基礎学力の定着(授業の充実・教科指導力の向上) (5)生命を尊重し、安全や健康に高い意識と行動力を持った生徒の育成(健康・安全教育の充実) (6)特別支援教育及びインクルーシブ教育の充実 (7)学校の魅力づくりとその情報発信による入学者数の増 (8)学校における働き方改革

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	魅力ある学校づくりに取り組む。	・本校の教育目標、教育活動を地域に発信し、志願者増を図れたか。	・志願者数15人以上を目指す。	・生徒が主体となって受付・誘導、学校概要説明を行うOpen Schoolを実施する。また、県内の全中学校に案内を配付する。 ・各中学校の高校説明会で、事前に撮影した在校生による発表を、出身校の7校で行い倉岳校の魅力を伝える。	B	・Open School当日は、在校生26人中19人の参加があり、受付・誘導・学校概要説明・行事紹介・部活動紹介を行った。参加した中学生71人中48人から、倉岳校への進学について肯定的な回答があった。また、県内の全中学校に案内を配付することができたが、天草管外からの参加者はなかった。次年度も生徒主体のOpen Schoolを実施したい。 ・稜南中学校、栖本中学校、龍ヶ岳中学校で、事前に撮影した在校生によるメッセージを発表した。倉岳中学校では、事前に集めた在校生からのメッセージを読み上げた。他の3校では、準備時間が取れなかったことや、説明時間の長さ等で実施することができなかったが、今後は映像での発表が難しい場合は、文章でのメッセージ紹介を行い、魅力を伝えていきたい。
		・本校の特色を生かした教育活動の充実が図られたか。	・『マナスタ』(生徒編)のNo.2「目標の確認」、No.4「振り返り」、No.15「積極的な発表」で、肯定的な数値の上昇を目指す。	・『マナスタ』チェックリストを年2回(6月、12月)実施し、その結果を全職員で共有する。学びのUD通信を発行し、数値上昇につながるような取組を紹介する。	B	『マナスタ』チェックリストは、7月と12月に実施し、その結果を全職員で共有した。生徒編の2回のチェックリストの比較における肯定的回答の割合は、No.2は0.02ポイント上昇した一方、No.4は0.17ポイント低下、No.15は0.13ポイント低下した。なお、今回No.9「わからないことを尋ねる」が0.35ポイント、No.13「予定の把握」が0.06ポイント改善した。また、数値上昇につながるような取組(振り返り〇×問題、振り返りシート)を紹介する学びのUD通信は1回発行することができた。
		地域に根ざし、地域一体となった学校を目指し、開かれた学校づくりに取り組む。	・保護者や同窓会、地域等と協働し、充実した学校行事ができたか。	・育友会総会の保護者出席率100%を達成する(欠席者集会を含む)。 ・マリンフェスタと秋桜祭の保護者参加率50%以上を達成。 ・マリンフェスタや秋桜祭で、同窓会からの支援事業を実施する。	・保護者が比較的参加しやすい日曜日に実施する。欠席者集会の案内を2週間前に配付する。 ・マリンフェスタの保護者参加率を高めるために、マリンフェスタの保護者説明会を実施する。 ・同窓会と協働し、マリンフェスタではポロシャツ販売を、秋桜祭ではリサイクルバザーを実施する。	A

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
		<p>・教育活動の公開の促進は図れたか。</p>	<p>・HPの累計アクセス数、昨年度36万件を、45万件以上にする。 ・倉岳校の情報を地域に発信し、地域住民に学校をより一層理解してもらう。</p>	<p>・HP更新を週1回以上の頻度で行い、授業や学校行事をはじめとする学校生活の様子を動画で発信する。また、学校行事の更新の他にも、ゆるキャラのページを定期的に更新するなど魅力的なコンテンツを発信する。 ・倉校新聞(年5回発行)を市政だよりにはさみ、倉岳町内の全世帯(約900世帯)や倉校生の出身中学校に配付するとともに、近隣中学校の各学級に配付、掲示してもらう。</p>	<p>A</p>	<p>・総務部職員でHPの記事作成担当期間を決め、平均週2～3回の頻度で情報発信をすることができた。大きな学校行事の様子は必ず記事にし、大きな行事が無い時期は学校環境や授業風景などを積極的に発信した。 ・HPの累計アクセス数は2026年1月27日現在で45万4236件となっており、目標の45万件を達成することができた。 ・倉校新聞を年5回発行し、市政だよりに挟み、倉岳町全世帯に学校の様子を広く周知した。また、近隣中学校や生徒の出身中学校にも持参または送付し、成長した生徒の様子をお伝えすることができた。</p>

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	生徒の基礎基本の定着と学力の向上に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 各定期考査前の1日の平均学習時間で3時間以上だった生徒数が目標を上回ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 考査1週間前平均学習時間3時間(180分)以上を全員年間1回以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が見通しを持って計画的に取り組めるように、考査時間割を考査2週間前に提示する。調査結果を、考査終了後1週間以内にまとめ全職員で共有する。 始業式、終業式等で、生徒に学習時間の状況について提示し、学習時間増加への意欲を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も毎日 Chromebook から入力できるシートを作成し、考査2週間前から学習時間調査を実施した。集計結果は、考査終了後1週間以内にまとめ全職員に配付することができた。次年度も継続したい。 始業式、終業式等で、生徒に学習時間の状況について提示した。2学期期末考査までに考査前平均学習時間3時間以上を1回以上達成した生徒は25人中13人で、全員1回以上は達成できていない。生徒の学習状況を面談等で確認し、学習意欲や時間を伸ばすような助言や手立てを考えていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 意欲的な読書の推進が図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1月末までの生徒一人当たりの貸出冊数6冊以上を目指す。 5科目以上の授業での図書室や資料の活用を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書だよりを年間4回発行する。 朝読書が習慣となっているので、生徒個人の読書記録簿を活用して声かけ等を行い、さらに活性化させる。 各教科の先生方からもリクエストを募り、必要な図書を購入する。 生徒たち自身がおすすめの本を紹介し合うコーナーを設置し、読書活動を支える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 図書だよりはこれまで2回発行した。あと2回、3学期の2月・3月に発行する予定である。 生徒個人に配付した読書記録簿を活用することでの意識付けはできた。しかし、継続的な声掛けはできておらず、家庭でも継続して読んでいけるような働きかけが必要である。 1月末までの生徒一人当たりの貸出冊数は6.04冊となり、目標には届いた。 授業での図書館や資料の活用は5科目となったが、さらに活用してもらえるように動く必要がある。 リクエストは取れておらず、購入も早くにはできていない状況である。学校評価アンケートでも、蔵書・資料の充実の項目は値が低かった。 生徒たちに「おすすめの本を紹介するメッセージ」を書いてもらい、互いに見ることができるとコーナーを設置した。
	職員の学習指導の工夫・改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> U-KI(内容のまとめ(単元等)あたりで、生徒が端末等を活用している授業の割合)が目標に達したか。 スーパーティーチャーの活用または近隣高校への授業見学の回数が目標に達したか。 	<ul style="list-style-type: none"> U-KI60以上(内容のまとめ(単元等)あたりで、生徒が端末等を活用している授業の割合が60%以上)を目指す。 スーパーティーチャーの活用または近隣高校への授業見学を各教科で年間1回以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育DX支援員による職員研修を4回行い、各種アプリの利活用方法を学ぶ。 年2回(6月、12月)、教師のICT及び生徒の端末の活用調査(U-KI)及び生徒の端末活用力調査を行い、年間を通しての上昇度合いを把握する。 スーパーティーチャーを含む各県立高校の公開授業を適宜案内するとともに、高教研の各部会主催の研究授業も含めた授業見学の回数を年度末に調査する。 1学期の校内公開授業期間、2学期の公開授業週間で、各2回以上授業見学を行い、授業の改善と充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育DX支援員による職員研修を考査期間の午後に4回行い、各種アプリ(Miro、Canva、Googleサイト)の利活用方法を学んだ。 教師のU-KI指数78.0%に対し、生徒のU-KI指数は38.3%で目標を達成することはできなかった。科目の特性や単元による使用頻度の差異もあると考えるが、次年度も、端末活用研修への参加の呼びかけや教育DX支援員による研修、アプリの活用方法の紹介を継続し、授業での生徒の活用を促したい。生徒の端末活用力調査の結果では、各種操作やアプリの使用について「自信がない」という回答が減少した。次年度も、あらゆる機会を見つけて使用する場面を設け、活用力を高めたい。 各県立高校の公開授業や研究授業の授業見学の回数は、全教科で行われ、延べ計15回だった。 1学期の校内公開授業期間は5人、2学期の公開授業週間は8人が、各2回以上授業見学を行うことができた。公開授業週間中は、外部からも29人の見学があった。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
進路指導（キャリア教育）	基礎学力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力講座及び個別指導の充実が図れたか。 ・小論文指導の充実が図れたか。 ・対外模擬試験等の受験が学力向上につながったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートで、「進路達成に向けた実力養成の機会が充実している」のA・B評価90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年において、放課後10分間を使った基礎学力講座の実施。 ・大学等進学希望者、公務員希望者への個別指導の実施。 ・小論文指導の充実のため、週に1回新聞記事を読み、意見を書かせる「朝コラム」の実施。 ・対外模試の実施。・学力検討会の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートで、「進路達成に向けた実力養成の機会が充実している」の項目で、生徒・保護者・職員の3者ともA・B評価100%の結果を得ることができた。 ・学年の実態に応じたテキストを使用し、放課後の10分間を活用して基礎学力講座をほぼ毎日実施することができた。 ・個別指導について、平日の放課後、長期休業中に計画的に実施した。大学合格者を出すことができた。 ・小論文、作文対策として、週に1回新聞記事を読み意見を書かせ、表現力を身につけさせることができた。 ・進学模試を計画的に実施し、実力を測る機会を提供した。 ・学力検討会を2回実施し、全職員で生徒の進路希望、現状の学力について共通理解を図り、以降の指導に生かすことができた。
	進路意識の高揚と、適切な進路選択の支援。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に係る行事の充実が図れたか。 ・進路情報の提供、進路面談の充実が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートで、「進路に関する行事は、自分の進路を考える上で役に立っている」のA・B評価90%以上を目指す。 ・学校評価アンケートで、「進路について適切な面談等が行われており、先生方に相談できる」、「進路を考えるための資料や情報が充実し、役に立っている」のA・B評価90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路行事の充実。キャリア教育講演会、就職ガイダンス、インターシップ、校内分野別進路ガイダンスを実施し進路意識の高揚を図る。 ・進路面談の充実。二者面談(学期1回)、三者面談(2年:冬休み、3年:夏休み)を実施し、生徒に必要な進路情報を提供する。 ・模擬面接の実施。2年生(3月)、3年生(4月以降)に実施し、実際の試験を想定して行うことで、意識の高揚を図る。 ・各種検定取得の推奨。英検、漢検、数検、家庭科技術検定、その他各種検定取得を勧め、進路目標達成の一助とする。 ・「キャリアパスポート」の活用。自らの成長をポートフォリオさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートで、「進路に関する行事は、自分の進路を考える上で役に立っている」、「進路について適切な面談等が行われており、先生方に相談できる」の項目で、A・B評価100%の結果を得た。しかし、「進路を考えるための資料や情報が充実し、役に立っている」の項目で生徒の評価が88%であった。今後は、進路ガイダンスへの参加を更に促したり、進路室に足を運ぶ機会を設ける等、進路情報収集の支援と機会を提供したい。 ・進路行事について、計画的に実施することができ、生徒の進路意識の高揚を図ることができた。今年度は、大学訪問と半導体関連企業の見学を行い、視野を広げる機会とすることができた。 ・担任を中心に進路面談を行い、生徒・保護者と共通理解を図りながら、必要な進路情報を提供することができた。 ・各種検定について、英検や漢検、数検など取得する生徒が出てきた。
	社会接続支援の充実に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力を育成できたか。 ・進路決定後の指導が十分行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上の新社会人教育の実施。 ・進路決定後も継続的に基礎学力を保障する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講演会(主権者教育、年金講話、新社会人セミナー、消費者教育)等を実施し、社会人として有用な知識とマナーを身につけさせる。 ・基礎学力の保障のため進路決定後も基礎学力講座、個別指導を継続して行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の生徒に対して、熊本県雇用環境整備協会のご協力のもと、新社会人セミナーを実施し、社会人として有用な知識とマナーを身につけさせることができた。また、保護者に対しても離職した際の対応、相談窓口の案内など情報を提供することができた。 ・進路決定後も基礎学力講座を継続して行い、基礎学力の定着を図ることができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	礼節を重んじた基本的な生活習慣の確立に取り組む。	・「倉岳校生活規律訓」に則った規律ある生活を送れているか。	・生徒の自己評価アンケートで「生活規律訓」に関わる各項目においてA・B評価95%以上を目指す。 ・服装頭髪検査において再検査者0を達成し継続する。	・全校集会等で「生活規律訓」の内容について話し、生徒が自らの生活と照らし合わせて生活規律訓に則った生活の継続及び改善に向けて考える機会を設ける。 ・日頃から全職員で細やかな指導を行い、服装頭髪検査前には各クラスで事前指導を徹底する。	B	「生活規律訓」に関わる項目においてA・B評価の割合が95%を上回った。あいさつに関しては、全体的にしっかりできているものの、語先後礼を意識してできるように日頃からの指導及び個別の指導が必要であると考え。また、目標を立て、目標に向かって努力する大切さを今後も伝えていきたい。 ・服装頭髪検査では、2学期中頃まで再検査者0名を達成することができなかった。しかし、それ以降、委員会を中心に各クラスへの周知やルール遵守の大切さなどができたため、1月までに0名を継続することができた。担任を中心とした日頃からの身だしなみに関する指導を継続、徹底していきたい。
	自ら考え、行動できる人間の育成を図る。	・より良い学校を創るために全ての生徒が尽力しているか。 ・規範意識を持って生活を送っているか。	・生徒の学校評価アンケートで、「生徒会活動が活発である」のA・B評価95%以上を継続する。 ・年間を通して特別な指導件数0件を継続する。	・より良い学校づくりを目指し各委員会において少なくとも1つは新しい取り組みを行うよう促す。 ・全職員で細やかな指導を行い生徒の小さな変化に対しても担任及び学年職員と情報共有し問題行動の未然防止を図る。	A	・活発な生徒会活動に対するA・B評価の割合は96%であった。生徒会執行部をはじめ、各種委員会が、よりよい学校づくりを意識して啓発ポスターの作成など新たな取組がみられた。次年度も全校生徒で生徒会活動の更なる充実が図られるよう全職員で指導していきたい。 ・特別な指導を要する事案は0件であった。すべての生徒が規範意識を持って落ち着いた学校生活を送れている。今後も担任を中心として全職員で情報共有を図り、問題行動の未然防止に努めていきたい。
	社会に通用する人材の育成を目指す。	・ボランティア活動の推進が図られたか。 ・交通安全教育の推進が図られたか。	・校外のボランティア活動等に、全校生徒がそれぞれ1回以上参加する。 ・交通事故、交通違反の件数を0件にする。	・朝の清掃ボランティア活動の推進による習慣化と、校外ボランティア活動への呼びかけを積極的に行う。 ・交通規範意識向上のための交通講話や登下校指導を実施する。	A	・朝の清掃ボランティア活動では、昨年度同様に多くの生徒が環境美化に貢献することができた。また、今年度も職員と一緒に活動を行い、生徒の模範となっていることが生徒の高い参加状況に結びついていると考えられる。しかし、1度も参加していない生徒もいる。全員が参加できる環境を作りたい。校外ボランティア活動では、天草街道一斉除草ボランティアや倉岳町ふるさとまつりには、1・2年生を中心に学校全体で参加し、地域に貢献することができた。校外ボランティア活動への参加生徒が増えた背景として、生徒会担当職員の呼びかけや周知方法の工夫が大きな要因と考えられるため、次年度も継続していきたい。 ・倉岳駐在所の方からの交通講話をはじめ、各学期に下校指導を実施し、交通安全を呼びかけた。交通事故・違反件数は0件であったため、今後も継続していきたい。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
人権教育の推進	互いの人権を尊重しあう心の教育の充実に取り組む。	・人権教育の推進が図られたか。	・人権教育推進委員会を年3回開く。 ・全職員が校外研修や人権関連行事に年1回以上参加する。 ・校内での職員研修を年1回実施する。	・各学期ごとに人権教育推進委員会を開き、研修や人権LHRの充実、外部講師の選定、情報の共有を図る。 ・校外研修や人権関連行事の情報提供を計画的に行い、積極的な参加を促す。 ・人権教育主任又は外部講師による職員研修を実施する。	A	・1、2学期に人権教育推進委員会を開き、人権LHRの内容検討や外部講師の精選、生徒情報の共有を行うことができた。 ・校外研修について、日程や参加状況を一覧にまとめて提示した。全職員が校外研修またはオンライン研修に1回以上参加し、人権教育に関する知見を深めることができた。 ・外部講師による講話を2回(同和問題・インターネットによる人権侵害)、オンラインによる講習(第3次とりまとめ)を実施することができた。
	命を大切にすることを育む指導の充実に取り組む。	・命を大切にすることを育む指導の充実が図られたか。	・命を大切にする心を育むための授業を年10時間程度実施し、「命」や「夢の実現」「ストレス対処」「薬物乱用防止」「救急法」についての学習を深める。	・各学年、教科と連携し、各学年別単元(ユニット)を構成して、計画的に指導を行えるようにする。 ・年度初めと年度末にアンケートを実施し、職員会議等で生徒の「命」に対する考えや、ユニットを通しての変化を全職員で共有し、次年度の指導に生かす。	B	・年度初めに各学年、教科と連携してユニットを構成し、先の見通しを立てて計画的に指導することができた。 ・年度末のアンケートは3学期の人権LHR後に実施予定であり、結果を分析して生徒の実態を把握し、次年度に生かしていく。 ・今年度の人権教育を通して、どのような変化がみられたかを職員にフィードバックする機会が少なかつたため(今年度は3学期に1度のみ実施予定)、次年度は回数を増やす必要があると感じた。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針に則った活動を遂行し、いじめのない学校づくりを推進する。	・いじめの未然防止が図られたか。	・職員研修(生徒理解含む)を年3回以上実施し、職員での共通理解を図る。 ・生徒の学校評価アンケートで「相談できる人がいる」のA・B評価100%を目指す。	・研修の復講等を通して全職員の意識向上を図る。 ・SCやSSWを活用し、誰もが気軽に職員へ相談できる環境を整える	A	・6月に職員研修「いじめ防止」を実施し、いじめの定義やいじめ問題への対応等について全職員で共有することができた。 ・「相談できる人がいる」のA・B評価は96%であった。今年度は、養護助教諭を中心に生徒が自ら相談する姿が見られたり、生徒の様子に応じて早い段階でSC面談につなげることができた。今後も、早期に対応できるように全職員で共有していきたい。
		・いじめの早期発見の取組が図られたか。	・こころのアンケート調査を年3回以上実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。	・各学期(7月・12月・2月)にアンケートを実施し、結果を基にいじめ対策委員会で協議し、必要に応じて当該学年職員及び生徒指導部職員等で面談を行うなど、組織的に早期対応する。また、いじめ匿名サイト「スクールサイン」を全校生徒が活用できるように指導する。	A	・各学期に1回、心のアンケートを実施し、アンケート結果を基に校内いじめ対策委員会で情報共有を行った。今年度のいじめ事案は0件であった。 ・年度初めに集会を開き、いじめ匿名サイト「スクールサイン」の説明とアプリの登録、テスト送信を全生徒実施した。今年度の投稿はなかった。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	
大項目	小項目						
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	学校行事における地域との交流の推進に取り組む。	・各年代との交流を深めることができたか。	・学校評価アンケートの地域交流に関する項目において、「地域の方々との交流を通して地域をより理解できた」と回答した生徒の割合を80%以上にする。	・近隣の幼保小中高との合同行事や老人会、婦人会などとの交流行事を年間4回以上実施する。実施時には担任を始め、教師から地域のリーダーとしての自覚を高めるための声かけを行い、主体的に参加させる。	A	・「幼保小中高合同清掃ボランティア」、「保中高合同避難訓練」、「倉岳校福祉の日」、「倉岳えびすマラソン大会」への出場ならびに運営ボランティアへの参加（一部生徒並びに職員）、「婦人会との交流会」の計5回の学校行事を実施することができた。昨年度の倉岳校福祉の日では悪天候のために老連会とのグラウンドゴルフ大会が実施できなかったが、本年度は盛大に開催することができた。 ・生徒評価アンケートの地域交流に関する項目において、「地域の方々との交流を通して地域をより理解できた」と回答した生徒の割合は83%となった。数値目標は達成しているが、倉岳・御所浦地域の魅力を生徒に体感させるより一層の取り組みが必要である。 ・本年度は令和7年度文部科学大臣優秀教職員表彰において、地域連携分野で「熊本県立天草高等学校倉岳校職員一同」が表彰を受けた。これはこれまで倉岳校を作り上げてこられた先生方と、地域の皆様のご協力のおかげであり、これまでの地域連携活動の大きな成果の1つである。今後とも地域に根ざした学校教育を推進していく。	
	地域の行事やボランティア活動に積極的に参加する。	・地域連携の組織づくりができたか。	・地域行事やボランティア活動への参加を生徒及び職員合わせて年間5回以上行う。	・主体的に参加することができるよう活動内容を具体的に示した募集案内を作成し参加を促す。		A	・幼保小中高合同清掃ボランティア活動に全校生徒、職員で参加し、地域の美化活動に取り組むことができた。また、倉岳町ふるさとまつりに1・2年生を中心に学校として参加し、演舞を披露することで、地域行事に関わることができた。前述の通り、昨年度に比べ、校外ボランティア活動への参加生徒が増えた背景として、生徒会担当職員の呼びかけや周知方法の工夫が大きな要因と考えられるため、次年度も継続していきたい。
	総合型コミュニティ・スクール	・学校運営協議会からの意見に対し、改善を図れたか。	・学校運営の基本方針に係る教育活動の計画等に関する協議を充実する。	・学校運営協議会（教育懇話会）を年2回開催し、本校の教育活動について検討する。 ・本校の教育活動の現状を把握するため、在校生、保護者、本校職員への学校評価アンケートを実施する。		A	・教育懇話会（2回）及び学校運営協議会（2回）では本校の学校運営に対して積極的な意見を頂き、生徒募集や学校魅力化等に向けた教育活動改善に生かすことができた。 ・学校評価アンケートを実施し、そこで出た評価をもとに各部の反省及び今後の改善方策を行った。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
保健・安全管理	心身ともに自己管理ができる生徒を育成する。	・心身の健康に対する意識が高まったか。	・心身の健康に関する講演会後のアンケートにおいて、「内容を理解できた」の回答率を100%にする。 ・ストレス対処教育講話を開催し、自己管理能力を培う。 ・スクールカウンセラーによる面談を実施し、自身の健康を維持・増進させていく姿勢・力を育てる。	・心身の健康に関する講演会を年3回以上実施し、生徒の理解度確認のためのアンケートを実施する。 ・体育保健委員と連携し、健康への意識向上のため、保健だよりを年4回発行する。 ・必要な行事の前には、養護教諭が留意事項等を印刷し、生徒へ配付する。 ・ストレス対処教育講話を学年ごとに1回ずつ実施する。 ・担任との連絡を密にし、カウンセリングの必要な生徒に確実に面談の機会を設け、継続して見守っていく。	A	・心身の健康に関する講演会を年4回実施できた。理解度アンケートの平均値は100%であった。 ・体育保健委員と連携し、現在4回保健だよりを発行しており、残り2回も1月・3月に発行する。今年度も各季節・学校行事に関連した内容を取り上げ、健康への意識の向上に役立てた。 ・学年ごとに実施したストレス対処教育講話で学んだことを、生徒たちは生活の中で生かしている。学年部やSCとさらに連携を図り、引き続き学年の実態に即した内容にしていきたい。 ・「心のアンケート」の結果や個人面談の内容も踏まえて担任と連携をとり、必要な生徒にはSCや巡回相談員、SSWと面談の機会を設け、本人の健康とよりよい学校生活、社会生活を目指し、見守っている。
	安全管理を徹底し、事故を未然に防ぐ。	・安全点検により事故を未然に防げたか。	・安全点検を年間3回実施し、事故件数0を継続する。 ・環境調査を行い、環境の整備を行う。	・長期休業前に全職員で安全点検を実施し、よりよい環境づくりにつなげる。 ・体育保健委員と連携し、水質や照度、二酸化炭素濃度、ダニアレルギー等について環境調査を行う。 ・全校生徒を対象に、学校環境についてのアンケートを行う。	B	・安全点検は夏期休業中・冬期休業明けとなったが実施し、3月に3度目を実施予定である。事故件数も0で継続できている。 ・体育保健委員と連携し、各種環境調査を行っている。特に水質調査は当番を決め実施できている。 ・安全点検や環境アンケートによってわかった改善の必要な箇所は、修繕等依頼し、少しずつではあるが進んでいる。老朽化と予算の問題が大きくあり、一度に多くは対応できない状況であるが、できるかぎり対応していきたい。
	良好な人間関係を構築するための態度やスキルを育成する。	・互いの良さや違いを認め合い、安心して自分を表現できる人間関係を構築できたか。	・高等学校における「学びのユニバーサルデザイン」構築事業の活動を継続して行い、よりよい人間関係を構築する力を育てる。	・全校集会において「人間関係づくりワークショップ」を計画的に実施し、事後アンケートを行い、コミュニケーション能力についての意識の変化を測る。 ・各クラスのLHRに対しても、人間関係づくりにつながるツールを示し、支援する。	A	・「人間関係づくりワークショップ」の事後アンケートでは、相手との会話のやりとりや相互理解ができたかなどの質問に対して、「できた」「まあまあできた」と答えた生徒の割合は93.7%で、ワークやグループでの意見交換によって、実生活に活かせる気づきを得ていた。事後に発行した「UD通信」でも振り返りを行うことができていると思う。 ・年度初めに、クラスでのLHRで活用できるプログラムを示した。1学年で実際に活用してもらい、人間関係づくりの推進につながった。
	防災教育及び災害時の自助、互助公助の精神を養う。	・災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できたか。	・避難訓練を年間2回以上実施し、生徒及び職員の防災意識を高める。 ・訓練後のアンケートにおいて「災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できた」、「防災についての学びを深め、防災意識を高めることができた」の2項目を達成した生徒の割合を100%にする。	・地震の避難訓練を1回、火災の避難訓練を1回行い、生徒の防災意識を向上させる。 ・訓練後に防災主任による防災講話やワークショップを行うことで、生徒の防災意識を高める。 ・職員研修を実施し、職員の防災意識を向上させる。	B	・避難訓練について、本年度は地震の避難訓練を2回、火災の避難訓練を1回の合計3回行った。 ・地震の避難訓練については7月に「抜き打ち避難訓練」を実施し、実際の被災時に近い状況で訓練を行うことで、生徒の防災意識を向上させることができた。 ・本年度も保中高合同避難訓練を実施することができ、保育園児や倉中生、倉校生の避難経路の確認や倉岳校職員の避難誘導の動きを確認することができた。避難完了報告を幼稚園・中学校・高校で集約するよう指導を受けたため、来年度の実施に向けて協議していく。 ・訓練後のアンケートにおいて「災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できた」の項目が95%、「防災についての学びを深め、防災意識を高めることができた」の項目は100%であった。 ・避難場所の周知徹底は生徒の命を守るために必要不可欠であるため、防災主任講話やワークショップなどを通じて生徒の認識を強化していく。 ・本年度は防災に関する職員研修ならびに、生徒への防災主任講話ならびにワークショップも実施することができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
特別支援教育	特別支援教育の充実と支援体制を確立する。	・特別支援体制の確立ができたか。	・個別の教育支援計画及び指導計画の作成と、一人一人の教育的ニーズ等に応じた合理的配慮の提供を行う。	・校内特別支援教育委員会を月に1回開く。 ・必要な生徒には個別の教育支援計画及び指導計画を作成し、全職員で共有するための時間を確保する。 ・学年団との連携を密にし、巡回相談員やSSWとの面談を積極的に行う。 ・生徒への対応の仕方や合理的配慮等について、巡回相談員による研修を実施し、職員で共通理解を図り支援にあたる。	A	・校内特別支援教育委員会をだいたい月に1回のペースで開き、必要な生徒に個別の教育支援計画及び指導計画を作成した。 ・委員会開催によって、学年を越えて継続して共通理解を図り、その情報を全職員で共有した。 ・将来を見据えた支援のあり方、外部と連携しての適切な支援について、巡回相談員による職員研修を実施し、知見を深めた。 ・学年団と連携し、さらに専門的な見地からの助言が必要な生徒に対して巡回相談等を活用し、支援に繋げることができている。社会人となることを見据えて、今後も継続していきたい。
業務改善・働き方改革	教職員が健康で公私ともに充実した人生を送ることができるよう体制を整備する。	・働き方改革に係る環境整備と教職員の意識改革ができたか。	・教職員の勤務時間外在校時間を年間平均月30時間以内(R6年度29:32)にする。 ・年間15日以上の子休取得を目指す。	・月1回の定時退勤日、夏季休業中の学校閉庁日(4日間)を設ける。併せて、時間外勤務時間が長い職員には、個別に助言等を行う。 ・「学校会計クラウドシステム」のBIB(ビズインターネットバンク)導入により、職員の負担感が最も高い会計処理にかかる負担を軽減する。	B	・昨年度同様月1回の定時退勤日、8月12日(火)～15日(金)を学校閉庁日とした。今年度、労安懇話会を3回開き、職員の勤務時間外在校時間を可視化して全職員で共有した。12月末の時点で、教職員の勤務時間外在校時間の平均は月26時間34分(昨年度29時間32分)であり、昨年度より約3時間減少している。個別の声かけや校務分掌内での再分担等にも取り組んでいるが、まだ個別格差は解消されていない。・年休取得については、12月末現在で平均11.5日である。・BIB導入により、会計処理の流れが変わったことで職員の負担感解消にまで至っていない。